

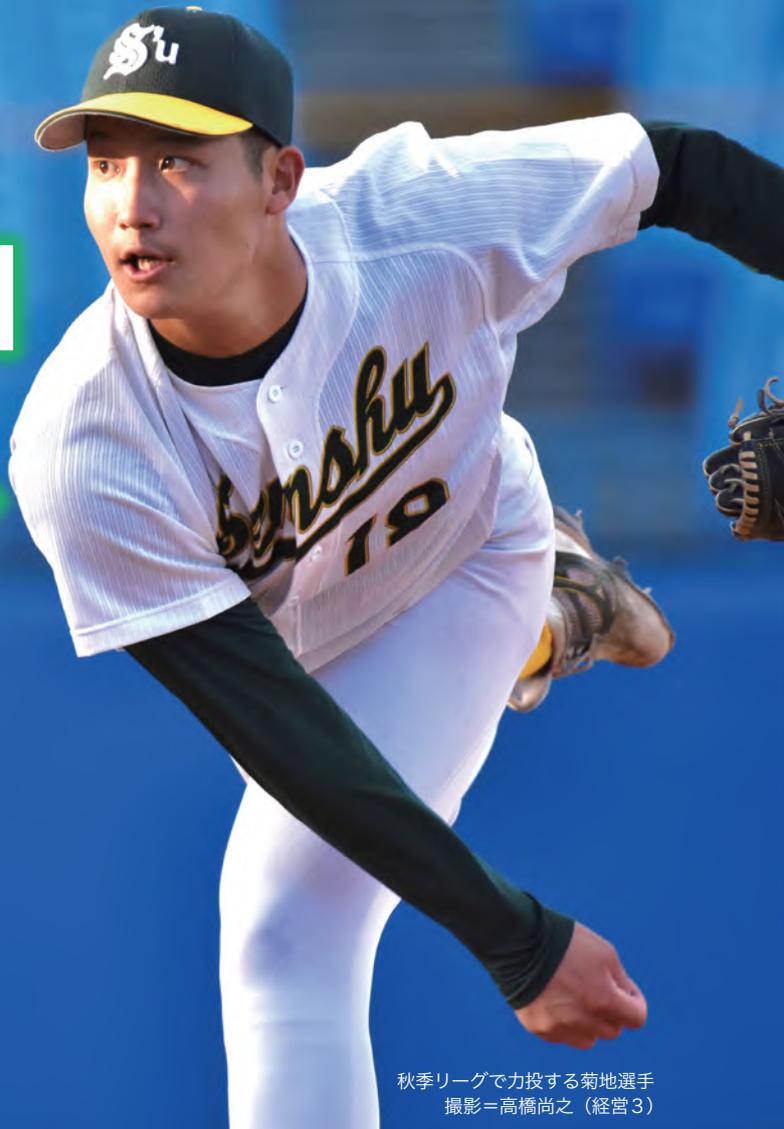
ドラフト1位 千葉ロッテ入団 菊地吏玖さん

体育会野球部の投手、菊地吏玖さん（経営4）がドラフト1位で千葉ロッテマリーンズに入団した。最速 152 キロのストレートと多彩な変化球で、東都大学野球2部リーグの秋季リーグ優勝に貢献した右腕は、並み居る報道陣とチームメイトたちの前でプロでの活躍を誓った。

プロフィール

きくち りく

投手。右投げ左打ち。身長183cm 体重93kg。北海道苫小牧市出身。札幌大谷高校では1年次から背番号1をつけて全道大会優勝に貢献。甲子園出場経験はないものの、高校時代の最速は144km。専修大学進学後、2年次秋からエース格に。4年次春の東都大学野球2部リーグでは最優秀防御率とベストナインのタイトルを獲得した。



秋季リーグで力投する菊地選手
撮影=高橋尚之（経営3）

チームメイトから祝福

ドラフト1位の記者会見後、菊地さんは共に戦ってきた体育会野球部のチームメイトから胴上げで祝福された。





↑生田9号館5階のアトリウムの会見場で指名を待つ。
左から佐々木学長、菊地さん、齋藤監督



↑会場では、多くの報道陣と体育会野球部員がその瞬間を待ち構えていた

運命のドラフト、その瞬間は突然に!

10月20日(木)、生田キャンパス9号館アトリウム。特設席で佐々木重人学長と齋藤正直体育会野球部監督に挟まれた菊地史玖さん。会場では、多くの報道陣、そして100名を超す体育会野球部員がその瞬間を待ち構えていた。

会場に設置されたモニターがドラフト会議のインターネット中継を流す。千葉ロッテドラフト1位——CM明け、突然の吉報に会場がどよめいた。

その後の記者会見で、菊地さんは語る。「正直1位で呼んでいただけとは思わず、油断ではないですけど、まさかという思いがありました。予想外でした」

そして照れながら、「家族、友人たちの顔が浮かんできて、きっと喜んでくれていると思い…目から汗が出ました」と笑った。記者から憧れの選手を問われると、出身の北海道の球団、日本ハムでも活躍したダルビッシュ有選手(現パドレス)の名を挙げた。

「札幌ドームで観た圧倒的な実力を持って相手を制圧する、これぞエースという姿に憧れました」

千葉ロッテの吉井理人新監督は、かつてダルビッシュのコーチを務めたこともある。その縁について、「そういった方の下で野球ができるっていうのは光栄なこと」

と喜びを語る。この日までの歩みを問われ、「どこかで歯車が違っていたら今の自分はない。専修大学で4年間過ごせてよかった」

と振り返るとともに、「常に家族が応援してくれ、そして仲間と楽しく野球

ができました。身近な人からの頑張ってといった声掛けなども支えだった。自分に関わってきてくださった人に感謝したい」

と周囲への思いを語った。

入団後の目標については新人王を掲げ、「いずれは千葉ロッテのエースと呼ばれる存在になりたい」

と活躍を誓った。



↑千葉ロッテの指名を受け満面の笑みを浮かべる菊地さん